

書評

カプラン HI, サドック BJ 編著/融道男, 岩脇淳監訳
臨床精神医学ハンドブック

岩崎徹也

このたび H.I. Kaplan, B.J. Sadock 編著による“Pocket Handbook of Clinical Psychiatry 第 2 版, 1996 年”が邦訳・出版された。本書の親本である“Comprehensive Textbook of Psychiatry”は 1967 年に初版刊行以来, 精神医学の発展を忠実に取り入れながら, 30 年間に 6 回の改訂, 増補を重ね, 今や 3,000 頁を超える大著に成長している。その間一貫して, アメリカにおける現代精神医学の最も標準的な教科書として評価され, 国際的にも学問的, 臨床的な意義を果たし続けている。一方, この教科書には初版以来 Synopsis, つまり要約版が刊行されており, 我が国でもその第 7 版が 1996 年に順天堂大学精神医学教室の諸氏によって『カプラン臨床精神医学テキスト』として翻訳出版されている。このたび, 東京医科歯科大学神経精神医学教室の融道男教授らの監訳によって刊行された本書, 『カプラン臨床精神医学ハンドブック』は, それをさらに要約して携帯にも便利にようにした原著, “Pocket Handbook of Clinical Psychiatry, 1996 年”を邦訳したものである。原著者が序文で述べているように, 本書は親本のいわば「エクス」のようなものである。「DSM-IV 診断基準による診療の手引」という副題にも示されており, 内容は DSM-IV の診断分類に沿って構成されている。我が国の精神科臨床に DSM が浸透している現在, 第一線で活動する精神科医, レジデントが白衣のポケットに入れて常用するのに大変便利な一書であるのみならず, 医学生, 心療内科医, 臨床心理士, ケースワーカーなどにとっても, 精神医学の基礎を正しく系統的に把握するのに大変使いやすい手引き書である。

DSM-IV で挙げられている各障害について, 概

説(定義, 歴史), 症候論, 診断, 病型, 疫学, 原因論, 検査, 鑑別診断, 経過と予後, 治療などが, 要領よくまとめられている。またそこでは生物学的視点から, 精神力動論や社会的なかわりまで, 公平にとらえられている。文章は簡潔, 明快な箇条書きが多く, また約 100 に及ぶ表が用いられていて, 読者の整理を助けてくれる。本書を読む過程でさらに深い知識を求める場合のために, 各章ごとに親本の相当箇所が明示されているばかりでなく, 本訳書には上記 Synopsis の邦訳書, つまり『カプラン臨床精神医学テキスト』で相当する部分も加えられており, 我が国の読者にとって親切な配慮がなされている。

翻訳作業は東京医科歯科大学神経精神医学教室の方々によって行われた。原書発刊後 1 年にして翻訳書が刊行されたという事実に, 訳者の方々の熱意が感じられる。この種の翻訳作業は, ともすると数をたのんで行われることが多く, そのために訳文の不揃いなどが生じがちであるが, 本書は同じ精神病理研究室の 4 名の方によって訳出されたとのことでもあり, 訳文も十分にこなれた, まとまりの良い日本語で読みやすい。監訳者序文で融道男教授が述べておられるとおり, 本書は新しい分類に従って精神医学の全体像を示しているもので「もっとも現代的で簡明なハンドブック」である。原書はアメリカですでに 6 万部を売り尽くしたとのことであるが, 我が国でも精神科臨床にかかわるすべての人々にとって必携の書物になるであろう。

(東海大学医学部精神医学)

● A 5 402 頁 1997 定価(本体 6,800 円+税) 医学書院 MYW 刊